

哲學研究

第百三十一號

第十二卷
第二二冊

ベスタロツチーと其百年記念祭

小西重直

人類教化の世界に於ける神人ともいはるべきヨハン・ハインリッヒ・ベスタロツチーは千七百四十六年一月十二日に瑞西のチューリッヒに生れ、千八百二十七年二月十七日ブルグで亡くなつた。今年はその死後百年目に當るので彼を生んだ瑞西では相當大規模の記念祭が行はれる筈であり、其他の國々に於ても夫々の催が企てられ、日本に於ても諸所で記念講演會などが催され、國民教育獎勵會では特に有意義に此を記念せんと畫策中である。又日頃ベスタロツチー研究に熱心なる數名の人々の間には此機會に於てベスタロツチーの主なる著書を邦文に譯さんとの計畫も熟して居る様子である。私は此記年祭が決して偶然のものでないといふことを了解せん

爲めに彼の生涯及事業の一端を追懐し、夫れが世界的に如何なる意義を有するかに就て所感を述べて見ようと思ふ。

× × × × ×

ベスタロッチーは生れながらシュブランガーの所謂社會型的の人であつたらうが、其血統や環境及教育よりの影響も無視することは出来ない。彼の祖先は北部伊太利のグラヅェドーナの住民であつたが、十三世紀の終りに瑞西との國境に近いキアヅェンナに移つた。其處の町吏員であつたバオロベスタロッチーの孫にあたるアントニオベスタロッチー(千五百三十四年生れ)は熱烈なる新教信者となり、宗教上の自由を得んが爲めに瑞西のチューリッヒに逃れ、千五百六十七年に市民權を得たと傳へられて居る。

ベスタロッチーの父は外科及眼科の醫者であつてベスタロッチーの五歳の時に亡くなつたのであるが、牧師を父にもてる彼は經濟の方面などには全く恬淡な性質であつたといはれて居る。父の亡くなつた後は田舎育ちのバルバラ・シュミツドといふ下婢が多年ベスタロッチーの母を助けて窮乏の家政をきりもりし、ベスタロッチーと其兄及妹の三人の遺子の教養に力を盡したのである。其信仰深き忠實な犠

性的な女性の眞劔さがベスタロッチーを痛く感動せしめたものと見え、彼の晩年の名著『白鳥の歌』に於て彼女に對して心からなる感謝の言葉を捧げて居る。

またベスタロッチーは幼少の頃に時々、チューリヒ附近の田舎の牧師であつた其祖父の家を訪れ、時には祖父に伴はれて不幸な人々を慰問したり、其當時の學校生活のすさまじい有様なども見聞し、おぼろげながらも社會の色々の方面に於て改善を要するものがあるといふ暗示を受けたのである。殊にチューリヒ専門學校で歴史、法律、及文學を教授して居つたポードマーや古典の教師であつたブライチンガーは當時に於ける一流の學者であつた許りではなく、實に憂國の志士であつたのである。若きベスタロッチーは此等の人々から殆んど決定的の感化を受けたのであつた。神學の教授であつたチンマーマンはベスタロッチーが此學校に入學する以前に他へ轉じたのであるが、此人が學校生活に残した人格的溫か味もまたベスタロッチーを初め若き人々の心の糧となつた。此當時ベスタロッチーはまたルソーのエミールをも讀み、容易に實現さるべしとも思はれない自分の夢のやうな理想は同様に實行の困難なルソーの夢のやうな書物によりて大なる激動を感じさせられたと言つた程にエミールの中に人間教化の革新的意味を見出だしたのである。併しルソーの

教育論は中等社會以上の人を目指したのであるが、ベスタロッチーは常に下層の人々の救済に専念したのである。而かも彼は如何なる方法によりて此目的を達すべきやに就ては色々迷の經驗をなしたのであつた。

田舎での説教に失敗した彼は牧師たることを斷念した。法律の研究も試みたが、彼の熱情的な實行的志念と一致しなかつた。遂に彼は二十三歳の時に、生涯の間彼の事業の内助者となつた妻のアンナと共に農園の開拓を試み、農民に對して農事改良の範を示さんとしたが、不幸にして失敗に終つた。次で貧兒院を起したが、これも成功しなかつた。經濟的には非常に困難な境遇に陥り、世間的には事業の失敗者として嘲笑さるゝに至つた彼は其後十七八年の間は主として論文や著述によりて一面には爲政者の反省を促かし、他面には民衆の精神内面に新生命を吹き起さんとした。隱者の夕暮や、寓話集や、人類發展に於ける自然の過程に關する研究など皆此頃の産物である。殊に千七百八十一年より六年間に亙りて公にされた其名著教育小説「リエンハルド及ゲルツルド」によりて彼は初めて世界的に認められベルンの經濟協會の如きはメダルや感謝狀を贈つて彼を表彰するに至つたのである。

何時までも言論や著作のみに没頭するには彼は餘りに情熱的であつた。實際上

の仕事なくしては生きられない人であつた。「學校の一先生たらん」どの彼の熱望は瑞西新政府の文部大臣スタッフエルの力によりて達せらるゝことになつた。スタッフエルは曾て獨逸の大學に學びカントにも私淑し、後ベルンの専門學校に於ける神學及哲學の教授となり、新政府の樹立に際し文部大臣に選ばれたのであるが、彼は實にペスタロッチの友人として最もよく彼を理解せる一人であつた。彼はペスタロッチにスタンツに於ける孤兒教育の仕事を提供し、ペスタロッチは魚が水を得たやうな心持で欣然として此を快諾し、數ヶ月の間八十名許りの不幸な貧しき孤兒の爲めに父母となり教師となり、醫者となり、召使とまでなり、自分がまだ生きて居るのは不思議であると言ふに至つた程極度に心身の疲勞を感じたが併しまた彼は實に此孤兒教養によりて教育に對する堅き自信を得、其神聖なる味を體驗するの機會を與へられたのである。これ實に五十二歳の時であつた。其後ブルグドルフやミュンヘンブクゼー等に於て農民の子供に新教育を施し、更らに最後にイザエルドゥンに新學校を創設し、二十年の長きに亘りて其抱負を實行し、人格と教育思想とに於て世界の教育に決定的革新を與へ教育界の新紀元を劃するに至つた。彼は千八百二十五年七十九歳にして最初農事改良の企畫をなせるノエホーフに隱退し、私の生

涯の運命[]]や[]]白鳥の歌[]]を公にし八十一歳にして世を去つたのである。

×

×

×

×

彼は其教育論に於て、又其教育の實際に於て常に宗教的道德の基礎に立ち、而かも頭と胸と手の働の調和せる人間性の教養を目標として居つたのであるが、彼自身の人格は其思想の具體化であり、其思想は人格其ものゝ表現である。全集十二卷六千頁の中に表はれたる思想は實に彼の生命の躍動である。千八百〇八年にスタツフェルに宛てた書簡の中に「愛は眞實にして、而かも十字架を恐れざる時に神のやうな力を發揮すべし」と言つて居るが、彼の一生涯は實に斯様な意味での人類愛に貫かれ、社會改良の實際的試に於て、又其新學校經營上の過程に於て、彼は實に幾度となく生きながら十字架の上の人となつたのである。而かも人間救濟の一念は彼をして此十字架上に希望と安息とを味得せしめたのであつた。

彼が九歳の頃であつた。學校での課業中突然大地震があつて教師も生徒も書物を手取る暇もなく皆我先きにと戸外に逃れ出た。彼等は殘し置いた教科書を持ち出だす爲めに再び教室に入る勇氣もなく、日頃大膽さと親切さに於て敬愛せるペスタロツチーに此を頼んだのであつた。彼は教室の震動が尙ほ止まないのに悠然

として教室に入り友達の爲めに教科書等を取り出したといふ逸話があるが、これは實にペスタロッチーの全生涯を物語るものである。千八百四十六年誕生百年記念祭の場合に新に建立された墓碑の銘に「凡てを人の爲めに、何事も自己の爲にせず」と彫まれ居るが、此一句はまことに彼の一生を貫く所の精神であつた。

× × × × × × ×

新學校イジェルドンに於ては一時各國よりの見學者は三十餘名にも達したことがある。殊にナポレオンの爲めに殆んど致命傷を受けた獨逸は其復興の力として教育の必要を痛感し、フイヒテはペスタロッチーの教育意見に感動して國民教育の普及と教育精神の革新を叫び、ウイヘルム三世及皇后ルイゼもペスタロッチーの新教育に共鳴する所あり、殊にルイゼの如きは、リエンハルド及グルトルドを讀み人類の救濟主としての著者ペスタロッチーに感謝の握手を捧げたいとまで其日記の中に記したと言はれてある。ペスタロッチー在世中に出版せる全集(千八百十九年より千八百二十六年に亘り出版、京都龍谷大學に所藏)も經濟的にウイヘルム三世其他より援助を受けたのであつた。又王は戰後財政窮乏の際にも拘らず、私財を投じて留學生をペスタロッチーの許に送り、此等の留學生や私費研究の人達が獨逸

に歸り教育界の要路に働きて是に國民教育の基礎が築かれ獨逸復興の精神的原動力が培はれたのである。其後一時ペスタロッチー主義が誤解され壓迫を受けたこともあつたが、幸にデイステルヰイヒの如き熱血的教育者の主唱により生誕百年祭も行はれ其教育精神は再び復活し、ザイファルトの如きはペスタロッチー全集を發行せるのみならず、千八百九十六年より雜誌「ペスタロッチー研究」を發刊して學界に多大の貢獻をなし、又ナトルプなどのペスタロッチー研究によりて、彼の教育精神が益其意義を深められつゝあるのである。

佛國にてはジュリアン、シャヅァンヌ、ノイン・ド・ビラン、ネーフ、ド・ガンなどの力によりてペスタロッチー主義が紹介され、英國に於てはグリーヴスの主張によりて此新教育が植付けられた。

米國に於ては初めペスタロッチーを招かんとしたが、ペスタロッチーは其門人ネーフを推薦した。ネーフはクエーカーの信者であつたペンによりて開拓創設された同胞愛の都なる非府に於て初めてペスタロッチーの教育精神を實行し、其後ホレースマンや、バーナードや、オルコットなどの盡力によりて米國の國民教育の中心精神は十九世紀初半期に於て全くペスタロッチーの教育主義によりて其基礎を確立

するに至つたのである。

日本も明治十年頃に米國の教育思潮を通してペスタロツチの教育精神が多少紹介され、著書としては明治二十年にペーンのペスタロツチ研究が山縣悌三郎氏の譯述によりて紹介され、明治三十年にはペスタロツチ誕生百五十年の記念に際し澤柳博士のペスタロツチ研究が出版された。其後ペスタロツチに關する著書が約十九種に及んで居る。(ペスタロツチに復れ！大正十五年京都崇仁小學校發行參照)殊に大正十一年以來發行されつゝある雜誌「渾沌」はペスタロツチ研究を其主なる任務となし、毎號有益なる記事を掲載して居る。日本の教育界に於てもペスタロツチの教育精神が少なからざる力を有し居ることは喜ぶべき現象であると言はねばならない。

斯くてペスタロツチの教育精神は殆んど世界の國民教育の地盤を築き、人類文化の進展の上に、國家社會の發展の上に永遠の生命を吹き入れ、彼は瑞西の下層の民衆を救はんとして人類全體の救主となつた……とフイヒテが彼れに捧げた讃辭は世界的に永遠に首肯さるゝことゝなつた。

社會の改良教化の方面に於て、學校に於ける新教育の提唱及實行の方面に於て、又教育教化の思想に於て彼は實に吾々に憧憬と研究の盡きざる泉を残したのである。チユーリヒや大伯林のシャーロットテンブルグや、ドレスデンなどにはペスタロッチーといふ町名もあり、プレスラウにはペスタロッチー國民學校といふのもあり、其他教育者の遺子救濟會などにペスタロッチー會などいふのもある。此等は皆彼の精神に對する感激憧憬の象徴である。チユーリヒにはペスタロッチー教育博物館あり其中にまたペスタロッチー研究會も附設され時々有益なる研究を發表して居る。又千八百九十六年生誕百五十年祭の記念事業として同市に於てはペスタロッチー協會が創立されペスタロッチーの精神に従ひ圖書館、講演會、音樂會、演劇等によりて國民教化の促進を力めて居る。又一般に世界を通じてペスタロッチーに關する研究も相當に行はれて居る。試みにイスラエルのペスタロッチー文献研究三卷約千六百頁に就て此を調べて見ると、獨逸や瑞西を中心に、英佛米等に於ける主なる研究をも加へ大凡次の様な數字になるのである。

第一、ペスタロッチーの教育教化の思想に關する研究

一、理論的基礎に關するもの

千八百九十八年迄、約三十六種

二、教授の方法に關するもの

千九百二年迄、約九十五種

三、人類教化に關するもの

千九百三年迄、約五十六種

四、各科教授への應用に關するもの

千九百年迄、約百二十六種

五、學校への應用に關するもの

千九百二年迄、約百五十六種

六、ペスタロツチと他の人との比較に關するもの

千八百九十九年迄、約百四十七種

第二、ペスタロツチの傳記に關するもの

一、生涯の傳記に關するもの

千九百年迄、約百四十五種

二、傳記の一節に關するもの

千八百九十七年迄、約百二十三種

第三、ペスタロツチの關係者に關するもの

千九百三年迄、約百七十四種

ペスタロツチと其百年記念祭

以上に擧げたものゝみに就て見てもペスタロッチーに關する研究が色々の形に於て已に千種以上になつて居るのであるが、人間が教育教化に關心を有する間はペスタロッチーに關する研究は永遠に盡きざることであらう。蓋し憧憬なくして研究は起り難く、研究なくしては憧憬は意味付けられない。吾々はペスタロッチーの歿後百年が世界的に記念さるゝに當り、其生涯の事業に對して感謝の念を新にする。と共に、其人格や思想に對し憧憬と研究の情念を深め、更らに人類向上の第一義としての教育教化の意識が一段強められ、其具體的進展を促がすに至らんことを切望するものである。